

ただ今ニュースの名前を

# 募集中

《No.4》



2016年4月17日から19日(20日はオプション)まで、沖縄県名護市を中心に、辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会・辺野古ゲート前テント村・本部町島ぐるみ会議共催の「沖縄学習交流集会」が開催されました。今号は、みんなが元気をもらったこの取り組みの報告特集です。写真は普天間基地が見える「嘉数高台公園の京都の碑」の前で撮りました。最初の記念写真です。

## 《沖縄学習交流集会報告集》 目次

開催に至るまでの経過報告	2ページ
17日「駆け足フォトレポート」と18日「ゲート前報告」	3ページ
18日「学習交流集会3つの講演・全国からの報告・決議・交流会」	4～7ページ
19日～20日スタディツアー「伊江島・高江・大浦湾・歴史と文化」	8～10ページ
「沖縄学習交流集会」みんなの一言	11～14ページ
ありがとう。そして、お疲れ様でした。	15ページ
インフォメーション	16ページ

(写真提供者…阿部悦子・安部真理子・高橋洋子・若槻武行・八記久美子)

## 「沖繩学習交流集会」に導かれた私たち

「辺野古土砂搬出反対」全国連絡協議会 共同代表 阿部悦子

昨年10月15日に、安倍晋三総理大臣あてに「西日本から辺野古への土砂搬出に反対する署名」を提出しましたが、この後古い知人で那覇市に住む沖繩大学名誉教授の真栄里泰山さんから、「沖繩で搬出地のみなさんの集会を企画してほしい」とのお声が掛かりました。「裁判闘争で厳しくなると思われる来春の沖繩は、土砂問題に取り組む人々の来沖で励まされる」と言われたのです。ようやく52,000筆余の署名提出の大役を終えた直後のこの要請は、私にとっては、実現に向けての筋道が見えず「夢物語り」に思えました。

しかしその後、鹿児島県南大隅町の人々とつながり、徳之島漁協の組合長さんのお話を聞き、「本部町島ぐるみ会議」のみなさんに出会って、「可能かもしれない」と思うようになりました。

何よりも本部町の広大な採石場に心痛め、ゲート前で日々闘っている方々が「いっしょにやりましょう！」と言ってくくださったことで勇気が出ました。

年が明けて、「ケーソンをつくらせない」三重県の人々との交流を経て、1月17日の「山口のこえ」の発足会に山城博治氏をお迎えし、私たちは「沖繩交流集会」を決めることが出来ました。自然に「導かれるように」…です。

開催に当たって、「沖繩の期待に応える成果を持っていけるのか？」という心配の声もありましたが、4日間の学習と交流で、本部・名護の方々、全国各地の人々の結びつきが強くなり大きくなりました。運動は今、新しいスタートラインに立った！と思います。チバリましょう！

《写真満載！》

各地の現状と闘いを紹介した  
パンフレットが完成しました。

土砂搬出が予定される各地の現状と闘いを、多くの方に知ってもらえる冊子。そして、財政的にも私達の運動を支えてくれる冊子です。

一冊500円のカンパでお渡ししています。



パンフレットの表紙

【三重・宮西いづみさん】冊子、大きな反響です。私の小さなメールネットワークでも次々注文が入ります。「新基地を作る…海を埋める…それには膨大な土砂が必要…その土砂はどこから、どうして来る？までは考えている暇がなかった」と、注文メールに添え書きしてくださった方がありました。感謝です。

### ■全協ニュースの名前を募集します

「全協ニュース」では味気ないので、名前を募集することにしました。字数は3～4字です。私たちの運動を表現した名前がいいなあと思っています。事務局までお気軽にお寄せ下さい。何個でも可です。

## 4月17日<<那覇空港から夜の交流会まで>>駆け足フォトレポート



沖縄の皆さんの歓迎を受けた後、喜友名(きゆな)さんのガイドで、まず普天間基地や佐喜真美術館を訪れました。



その後嘉手納基地も見学。夜の交流会では地域ごとの自己紹介で、楽しい時間を過ごしました。写真は沖縄の皆さん。

## 4月18日午前 <<ゲート前報告>>

# あの握手からなにも<sup>こぼ</sup>零してはならない

「辺野古に土砂を送らせない！」山口のこえ 大谷正穂

お迎いの「本部町島ぐるみ会議」の方の車に乗ったときから宝物のような時間が始まった。ゲート前集会での、いまも心に残る言葉をいくつかお伝えします。

「オール沖縄をオールジャパンに」(大津共同代表)、「片思いから両思いに、そして闘いの運命共同体に」(阿部共同代表)、「ゲートはどこにもある。みんな現地を持っている」(毎月11日に伊方原発ゲート前で座り込む愛媛の松尾京子さん)。座り込み当初から参加している男性や島ぐるみ会議の人たち、毎月参加する関西の若者グループ、JRの組合からは24人の青年が加わり、東京の建設関係の組合や関西生コン組合など、各地からの多彩な顔で賑わうゲート前、テントだった。

座っているこの場所にきのうは別の人が、明日は会ったことのない人がたんと座る。これってすごいことだ。「不可視の仲間」を辺野古現地で感じた。多くの「ヤマシロヒロジ」が生まれている。闘いが広がるとは、こういうことだろう。

私たちの目の前を軍用車の列が続く。「基地の中に国道が通っている」と山城さんが怒りをあらわに叫ぶ。ゲートの金網に「米軍は隣人ではない！ただちに撤退せよ」の横断幕。隣には

「市民を追いかけ回し、暴力を振るうこの男」の文字と機動隊員の顔写真が掲げられている。「和解協議はいつか終わる。いまのこの時期に辺野古支援の輪を広げたい」と、テントで辺野古の浜で何度も聞いた。なんとも居心地のいい場所だった。だが、土砂搬出地から行った私たちが座り込むのはこの場ではない。土砂を本当に止めるため、私たちの地域に座り込もう。

東ティモール独立にむけ助力を重ねた友人の神父さんが、同地で出会った人たちのことを綴った文章の中にこんな言葉がある。あの握手からなにも零してはならない(「石が叫ぶ福音」林尚志)



ゲート前での抗議集会

## 【講演1】土砂採取と海の汚染

海の生き物を守る会代表・北大名誉教授 向井 宏

辺野古新基地建設予定地の大浦湾と辺野古沖の海は、生物多様性が非常に高く、天然記念物のジュゴンの餌場としても重要な場所である。ジュゴンは防衛局の調査では沖縄島周辺に3頭しか生息していない。生物多様性条約で日本政府は2020年までに日本周辺海域の10%以上を海洋保護区とすることと、同時に絶滅危惧種を減らすことを約束した。しかし、このままではジュゴンは絶滅してしまう。一刻も早くジュゴン保護のための保護区の設定などの対策が求められる。

沖縄県内のみならず西日本各地から埋め立て用の土砂が辺野古へ搬入されようとしている。これは埋め立てられる辺野古だけでなく、土砂を採取される地域の山や海の環境も破壊している。われわれは奄美大島住用の市採石場と小豆島の採石場の前の海に潜って採石場の影響を調査した。その結果、どちらの採石場前の海も降雨に伴って流出してくる濁水が海を汚し、奄美ではサンゴや魚類などさまざまな生きものが堆積したヘドロによって死滅させられていることが明らかになった。小豆島では流れが速く海底が急峻であることから、ヘドロの堆積する面積は大きくないが、その代わりに濁水は広く広がり海洋生態系に広く薄く影響を

与えていると思われる。採石事業の許認可において、環境への影響を無くす視点で採石法の改正が必要だ。

沖縄島と奄美大島はいっしょに世界自然遺産登録を目指している。そのためにやんばる国立公園の設立がまもなく実施される予定である。奄美大島は天然記念物のアマミノクロウサギ、アマミトゲネズミなど希少な森の生きものが生存している。その森を破壊し海を汚して、辺野古の海を埋め立てては、世界自然遺産への登録は不可能であろう。

さらに辺野古への埋め立て土砂には海砂も使われる予定である。沖縄県では海砂の採取がこれまでも行われてきた。鹿児島県でも行われているが、奄美大島では海砂の採取によって近くの砂浜海岸の砂が大幅に消失している。沖縄県の砂浜や砂底の環境も大きく破壊される可能性がある。辺野古だけではなく沖縄や奄美大島の海岸を守るため、海砂の採取は禁止されるべきである。



## 【講演2】海砂採取と漁業資源・瀬戸内海での教訓

—自然は縫い目のない織物、どこも壊してはならない—

辺野古埋め立て用土砂の約2.8%に当たる58万 $\text{m}^3$ は沖縄本島周辺の海砂である。コンクリート用骨材を海砂に依存する沖縄では、その環

ピースデポ・環瀬戸内海会議 湯浅 一郎

境影響はあまり問題にされていないが、瀬戸内海での事例から推測するに海への影響が懸念される。

海砂採取は海底の砂泥を根こそぎポンプアップし、砂分だけ取り出し、礫や泥は高濃度の濁水として放出する。大きく2つの問題がある。第1は、洲や砂堆の消滅と海底地形の変化である。例えば竹原市(広島県)では水深3~10mの浅瀬が消滅し、現在は水深30~40mと深くなった。この砂堆はイカナゴが夏眠し産卵する場であるため、イカナゴの漁獲量は、岡山県を初め、広島県、香川県、愛媛県などで軒並み激減した(県内での採取を禁止した兵庫県だけは例外)。その結果、イカナゴを餌とするタイ、サワラ、スナメリクジラも減少した。逆に食物連鎖の中でイカナゴと同じ位置にあるクラゲは異常増殖した。第2は濁水の拡散により透明度が悪化し、微粒子の付着により藻場が減少した。

1998年の広島県を皮切りに2008年までには全域で海砂採取は禁止された。以後、海砂採取海域付近ではアマモ場の回復、タイラギ(貝柱)の漁獲増、イカナゴの若干の回復(岡山県)、ス

ナメリクジラを目撃回数増などが起きた。濁水の拡散が止まったことで環境が好転してきている。この経験から、縫い目のない織物としての自然のバランスを崩してはならないことがわかる。



沖縄県でも海砂採取により海底地形が変化し、濁水の拡散に伴う透明度の低下と海草の減少が起きているはずである。海砂採取海域はジュゴンの回遊ルートと重なり、ジュゴンの生きる場を破壊してきているのではないか。これに辺野古埋め立てが加わればジュゴンにとどめを刺してしまう。ともあれ沖縄では、従来からの海砂採取による環境影響に関する海底の総合的な実態調査を緊急に実施し、環境影響を正確に捉えることが必要であろう。

## 【講演3】

# 県外から辺野古への土砂持込みの問題点について

沖縄平和市民連絡会・現地抗議船船長 北上田 毅

●辺野古の埋立では2100万 $m^3$ の埋立土砂のうち、1640万 $m^3$ が県外から持ち込まれる。最初は辺野古ダム周辺からベルトコンベアーで搬送した土砂(200万 $m^3$ )で大浦湾の奥の部分から埋立工事が始まり、その後に県外からの土砂が搬入される。県外からの土砂搬入は、工事開始後、2年次始めから4年次末まで3年間に渡って続く。

他にも、埋立護岸の基礎工等のために150万 $m^3$ の石材が必要だが、これらは全て沖縄島のものを使用するとされている。

県外からの埋立土砂の搬入については、昨年

から施行された沖縄県土砂規制条例の手続きを踏まなければならない。しかしこの条例は、90日間で大量の土砂をチェックする必要があり、しかも罰則規定もないという限界がある(条例改正が必要)。



むしろ有効なのは、埋立承認の際に付けられた「留意事項4」であろう。そこでは、「土砂等の採取場所及び採取量を記載した図書を変更して実施する場合は、知事の承認を受けること」とされている。

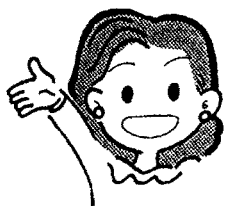
防衛局の当初の土砂搬入計画は、西日本各地の土砂搬出元で始まった住民運動等により当初計画の変更は必至である。石材についても、那覇空港滑走路増設事業と同じく、県外からの調達も必要になるだろう。これらの変更を知事が承認しなければ、埋立工事は頓挫する。

●また、防衛局の埋立承認願書には、埋立土砂について、「ダム堆積土砂や浚渫土を含む建設残土、リサイクル材等を優先して使用します」

と記載されている。その具体的な詳細は未だ明らかにされていないが、いったい何を持ち込もうとしているのか、厳重な監視が必要だろう。

また、シュワブの陸上部を掘削した土砂(200万㎡)も埋立に用いられる。現在、米軍基地内の土壌汚染が深刻な問題になっており、これも中止させなければならない。

いずれにしろ、辺野古新基地建設事業を阻止するためには、埋立土砂の問題を徹底的にチェックしていくことが必要である。



3つの学習の後  
全国からの報告があり  
最後に下記の決議文を  
採択しました。



発言の順番を待つ、全国のメンバーたち。

2016. 4. 17～19 沖縄学習交流集会 決議 (2016年4月18日 学習交流集会において採択)

## 埋め立て土砂搬出反対、新基地建設ストップの声を日本全国に響かせよう

2015年5月、辺野古新基地建設の埋立て土砂を、西日本各地から採取する計画を知った土砂採取予定地の7つの環境団体が、「一粒たりとも故郷の土を戦争に使わせない」を合言葉に、奄美で辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会(以下、辺野古土砂全協)を結成しました。そして、そのわずか半年後の10月15日には、全国から寄せられた「西日本各地からの辺野古埋立て用土砂採取計画の撤回を求める署名」52,429筆を、強い怒りの声と共に、首相・安倍晋三に提出しました。

また、署名の取り組みと並行しながら、土砂採取予定地とされる全ての県で、搬出に反対する住民・市民団体が結成されました。さらに三重県では、辺野古埋立て用ケーソン製造に反対する市民団体が立ち上がるなど、現在、辺野古土砂全協は18団体が参加し、個人会員も増えつつあります。

大量の土砂採取は、持ち出される側にとって地域の山・川・海などふるさとの環境や景観の破壊をもたらします。しかもその大半が、国立公園の隣接地や世界自然遺産登録を目指す地域にあるのです。

辺野古と大浦湾の海は、豊かな生態系を有している海域として世界的にも評価され、まさに「国民共有の財産」となっています。この宝の海への大量の土砂搬入は、辺野古と大浦湾を回復不可能なまでに破壊することであり、しかも外来種が混入すれば、生態系、そして農業・漁業などへの影響も避けられません。

そして何よりも、辺野古新基地建設は単なる普天間基地の代替施設ではなく、海空両用の最先端の軍事機能を有する基地の新設増強であり、耐用年数200年ともいわれる基地を半永久的に固定化することであり、決して沖縄の基地負担軽減にはなりえない計画です。

以上の点から、私たちは、圧倒的な沖縄県民の「基地反対」の声を無視した辺野古新基地建設計画工事強行に強く反対するとともに、反対する市民に対する理不尽かつ暴力的な人権蹂躪に心底から強く抗議します。

今回の沖縄学習交流会では、沖縄の皆さんの思いを直接感じるとともに、現地に足を運ばなければ決して見えてこない辺野古基地内の土砂採掘、高江のヘリポート、伊江島の新基地、オスプレイ全国配備との関連など多くのことを学ばせて頂きました。

私たちは今日あらためて、辺野古新基地建設計画が日本全体の問題であることを肝に銘じたいと思います。そして、今回ともに学んだ沖縄の皆様から感謝するとともに、沖縄と全国が連帯・連携し、「埋め立て用土砂搬出、辺野古新基地建設」ストップの声を日本全土に響かせていくために、さらに力を合わせて活動していくことを表明します。

## 【沖縄と全国協の交流】心を一つに勝利の日まで

本部町島ぐるみ会議 原田みき子

雨にもかかわらず、多くの方々が学習会に参加してくださり、その喜びの余韻が残っていたせいか、交流会は大いに盛り上がった。特に残り10分になった時、「お名残惜しいのですが、あと10分程で終わりとしなければなりません。是非お話したいという方がいらっしゃいましたらマイクを回します」と私が呼びかけたら「山城ヒロジさんのお話が聞きたい」と女性たちの声があちからもこっちからも……。照れくさそうにステージに上ったヒロジさん。マイクを握れば今や名物となったヒロジ節が炸裂。時々右手をグルグル回して左足を踏み出し「エイヤッ」とげんこつを突き出す。私はこれを「ヒロジの啖呵切り」と秘かに呼んでいるが、演説が絶好調になると突然この動作が入る。聴衆はここでヤンヤの喝采を送る。山城博治は人間的魅力にあふれる人物だが、アジテーターとして一流であることを痛感する。ゲート前の集会在雨の日も風の日も活気に満ちているのは、彼の演説に拠るところが大きいと思う。阿部悦

子さんはすっかりこの「ヒロジの啖呵切り」に魅せられ、つきっきりで彼から教わっていたが、すぐマスターされ何度も披露された。ヒロジさんほどの迫力はないが、愛嬌があつてよかった。

学習会から続けて、芥川賞作家の目取真俊さんも参加されていたが、ヒロジさんに指名され、ステージに上った。米軍に拘束された体験を話され、米軍基地内は治外法権でありそこに拉致、監禁されればその人がどういう状況にあるかを確認することもできないと説明された。

「新基地建設を止めよう！全ての米軍基地を撤去しよう！」と呼びかけると、会場全体が興奮に包まれた。「沖縄を返せ」「座り込め」「今こそ立ち上がろう」などゲート前ソングを全員で歌った。全国から来られた方々と沖縄メンバーがスクラムを組み、心を一つに勝利の日まで闘うことを誓い合った。主催者として奔走した本部町島ぐるみ会議にとって、心に残る一日であった。



次から次にゲートソングを歌う、交流会参加者たち

## 【沖縄と全国協の交流】心を一つに勝利の日まで

本部町島ぐるみ会議 原田みき子

雨にもかかわらず、多くの方々が学習会に参加してくださり、その喜びの余韻が残っていたせいか、交流会は大いに盛り上がった。特に残り10分になった時、「お名残惜しいのですが、あと10分程で終わりとしなければなりません。是非お話したいという方がいらっしゃいましたらマイクを回します」と私が呼びかけたら「山城ヒロジさんのお話が聞きたい」と女性たちの声があちからもこっちからも……。照れくさそうにステージに上ったヒロジさん。マイクを握れば今や名物となったヒロジ節が炸裂。時々右手をグルグル回して左足を踏み出し「エイヤッ」とげんこつを突き出す。私はこれを「ヒロジの啖呵切り」と秘かに呼んでいるが、演説が絶好調になると突然この動作が入る。聴衆はここでヤンヤの喝采を送る。山城博治は人間的魅力にあふれる人物だが、アジテーターとして一流であることを痛感する。ゲート前の集会在雨の日も風の日も活気に満ちているのは、彼の演説に拠るところが大きいと思う。阿部悦

子さんはすっかりこの「ヒロジの啖呵切り」に魅せられ、つきっきりで彼から教わっていたが、すぐマスターされ何度も披露された。ヒロジさんほどの迫力はないが、愛嬌があってよかった。

学習会から続けて、芥川賞作家の目取真俊さんも参加されていたが、ヒロジさんに指名され、ステージに上った。米軍に拘束された体験を話され、米軍基地内は治外法権でありそこに拉致、監禁されればその人がどういう状況にあるかを確認することもできないと説明された。

「新基地建設を止めよう！全ての米軍基地を撤去しよう！」と呼びかけると、会場全体が興奮に包まれた。「沖縄を返せ」「座り込め」「今こそ立ち上がろう」などゲート前ソングを全員で歌った。全国から来られた方々と沖縄メンバーがスクラムを組み、心を一つに勝利の日まで闘うことを誓い合った。主催者として奔走した本部町島ぐるみ会議にとって、心に残る一日であった。



次から次にゲートソングを歌う、交流会参加者たち



## 《伊江島の「島ぐるみ」闘争は沖縄の闘いの原点》

辺野古土砂搬出反対熊本県連絡会 生駒研二

米軍の「銃剣とブルドーザー」で家を焼かれ土地を奪われた伊江島。そこから私の闘いの師である阿波根昌鴻さんの非武装の「島ぐるみ」の土地返還闘争が始まる。陳情規定にこうある。「人間性においては、生産者である我々農民の方が軍人に勝っていると自覚し、破壊者である軍人を教え導く心構えが大切である」「反米的にならないこと」「耳より上に手を上げないこと」「怒ったり悪口を言わないこと」と。

彼の集めた戦争の『証拠品』と闘いの記録が展示されているのが『ヌチドゥタカラの家』だ。40年共に闘かわれた現在の館長の謝花悦子さんは「憎んではいけないと生きてきたが、原発を推進し、伊江島・辺野古・高江に永久の基地を作ろうとする安倍（首相）に今は憎しみしかない」と。そして「沖縄は独立するしかない」とおっしゃる。「オスプレイも伊江島にやってきたが、金をもらった村人は反対しない」と怒

りが募る。しかし、「阿波根は『平和の武器は学習だ』と言った。5本指の教え（5本の指いつも仲良く助け合って、共に働く指に学びましょう）も残してくれた。展示できない膨大な証拠品の品を調査してくれる先生方や2014年の選挙。その後の翁長知事や辺野古基金など平和を創る多くの人々の動きに支えられ、私たちは勝てる」と2時間、力強く語られた。

島ではオスプレイ2機が飛行を繰り返し、落下傘での降下訓練までも行われていたが、沖縄の闘いの原点のエネルギーを頂き、「命どう宝」と未来へと続く命を思った。

右は、お話しをしてくださった謝花悦子さん。「五本の指のTシャツ」を掲げているのは、案内の高垣さん。



偶然見た、パラシュート降下訓練。

## 《高江の運動に敬意を感じるとともに》

五島列島 自然と文化の会 歌野 礼

「高江がヤバイ」とは聞いていた。「あそこ（の活動）は大変」とも聞いていた。その高江の実態は…どこまでも広がる美しい亜熱帯の森と、熱帯には珍しい清流と、穏やかな過疎の村。海と山と廃校ばかりの上五島から来た私にとって、これほどヒリヒリする郷愁を掻き立てられる場所はない。その美しい村の上空を、我が物顔に殺人機械が飛び回り、好き放題に山を削ってその拠点を増やそうとし…それを、その土地

を愛し、そこで生きようとする少数の人で、なんとか押しとどめている。

広大な森林を勝手にフェンスで囲い、どこからでも重機を持ち込んでヘリパットを建設するつものの米軍に対し、住民が取れる手段はただひとつ。ゲートに接した県道に車を横付けにして簡単には入れないアピールをしながら監視して、時間を稼ぐだけなのだ。現在も広大なスペースに点在する6つのポイントに1～3名

が張り付いての 24 時間体制。気が遠くなりそんな住民の活動である。

その間にも、村の店は閉店、中学校は統合。本島の上水道の 60%を支える水源は米軍所有地の中。住民の生活は置いてけぼりだ。



高江のテント村にて

私は高江の運動に敬意を感じるとともに、沖縄の中の過疎地の悲しさもみた。それは、採石場を数少ない産業として抱える過疎地の私たちが共有すべき悲しみではないだろうか。



天然記念物で絶滅危惧種のノグチケラが、過去に4羽も高江小中学校の校舎で衝突死。窓には、ノグチケラの天敵である、猛禽類の「タカ」の絵が貼られていた。

## 《グラスボートで大浦湾・・・アオサンゴに見とれて》

辺野古のケーソンをつくらせない三重県民の会 高橋洋子

18日、沖縄ツアーで予定されていたグラスボートは雷の心配から出ることができませんでした。ところが、20日の二見以北のスタディツアーの中に急遽入れていただくことができました。早く帰られた方には申し訳なかったのですが、21人の方が乗ることが出来ました。

このグラスボートは、辺野古基金で購入したものです。船の定員は11名なので、二回に分けて一時間ぐらいのコースで汀間漁港から大浦湾に出ました。立派な屋根付きで、座席下の船底にはアクリル板の長四角ののぞき窓が付いています。

船での案内は名護市議の恩納村琢磨さんがしてくれました。まず、見えてきたのは新基地建設現場のフェンス、その中に監視船が一隻私たちの動きをしっかりと監視しています。フェンスの一つの丸い玉が一個3万円と聞き、みんな一体いくつあって全部でどれだけの金額になるだろうと唖然とするばかりでした。船の横に ODB の文字が見えますが、海保の天下り先、民間会社だそうです。

辺野古崎反対の陸側には豪勢なカヌチャベ

イホテルとビーチが見えてきました。ゲート前で座り込みの人達をごぼうぬきしていた東京の機動隊が宿泊していたそうです。

ふと気づくと、だいぶ沖に出ていました。巨大なアオサンゴの見える沖です。全部一つのサンゴで出来ていると言われてもどれぐらいの大きさか想像がつかず、ずっとグラスの底に見とれていました。サンゴと熱帯魚に歓声が上がっていました。

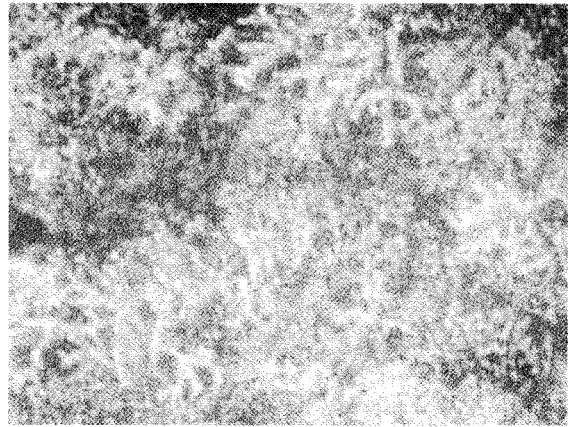
海の中をこうして見ていると、この上にコンクリートブロックを投下するとどうなるか、ジュゴンの食べる海草が生えなくなるとどうなるか身にしみて分かります。

船から下りて「ジュゴンの見える丘」まで行



グラスボートで大浦湾の中を見学

き、御弁当タイムでした。細い山道を抜けて、眼前に広がる海の景色は、浦島さんが沖縄で一番きれいに見える所というのが十分納得できる景色でした。立ち上がって食べて、景色までおcaずに行っている方がいらっしゃいました。そして吉本さんは「いつもここへ来ると新基地はつくらせないぞ」と思うと。私も、この海を守り、戦争につながる新基地はつくらせないぞと誓いました。



美しいサンゴに歓声が上がる

## 《歴史と文化・・・魂の帰ってゆく海を守り通したい》

辺野古埋め立て土砂搬出反対北九州連絡協議会 山下綾子(京都在住)

「どの故郷にも戦争に使う土砂は一粒もない」とのパンフレットの見出しに目を惹きつけられました。私は京都に住んでおり、埋立土砂の搬出地ではありませんが、この度辺野古土砂搬出反対集会に参加させていただきました。

京都から4人参加しましたが、学習交流会に参加してみて、とんでもない量の土砂が本土から搬出されて埋立てに使われようとしていることを知り、搬出側の人々がその阻止に立ち上がったことは、この上なく合理的で有効な行動だと思いました。

グラスボートに乗せていただき、サンゴが豊かに繁り、その間を小さな魚が気持ちよさそうに泳いでいるのを見て、この美しい海を人殺しと破壊しかもたらさない戦争の基地のために犠牲にすることは自然への冒瀆であり、到底許されることではないとの思いを強くしました。

また、二見以北のヤンバルの森やジュゴンの見える丘、そして沖縄のご先祖の方々が眠られるお墓も案内していただきました。

お墓はみんな海の方を向いて建てられていましたが、その理由は沖縄では、昔から幸いは海の向こうからくるとの言い伝えがあり、それ故死亡した後、人々の魂は幸いの住む海の方へと旅立って行く信じられているからであるとのことでした。そのように沖縄の人々の信仰や憧憬の対象にまでなっている大切な海を土砂や岩石で埋め立てて汚すことは、沖縄の人々に対する冒瀆でもあります。ジュゴンの丘から見た美しい海岸、サンゴの海、人々の魂の帰ってゆく海、守り通したいものです。この協議会の存在と活動を搬出地でない地にも広げたいと思います。

**\*私たちの「沖縄学習交流集会」のことは、琉球新報や沖縄タイムスに、大きくし・詳しく掲載されました。**



沖縄には昔から、幸いは海の向こうからくるとの言い伝えがある。写真は、「ジュゴンの見える丘」から撮影。

## 参加された皆さんからの《一言メッセージ》

### ●北山睦子（沖縄）

本土に住んでいる頃は、基地建設反対であって  
も何ら行動せず傍観者でした。今回多くの県外の  
人々が、沖縄に関心を寄せ行動する姿に強く心を  
動かされました。

### ●北山 昌（沖縄）

関東以西より 38 名の方々が、わざわざ沖縄県  
内基地関連の地へ足を運ばれたことに感謝いた  
します。学習会・各地の報告により新たな知識を  
得ることができました。

### ●崎浜静子（沖縄）

平和な暮らしは黙して得られるモノではない  
ことを、様々な報告で知った。その事を多くの人  
に訴えていく。政府が描く戦略を、私達の優しさ、  
逞しさで押し返す。共に手を取って。

### ●仲宗根須磨子（沖縄）

九州が地震で大変な時に沖縄に集結してくれ  
て感謝。土砂搬出地と搬入地が協力して辺野古新  
基地をストップさせるのはとても有意義。この和  
をさらに拡げて行って未来の子どもたちのため  
にも頑張ろう！

### ●前原信俊（沖縄）

私は政治的なモノ、特に基地に関わる事は避け  
てきましたが、初めて辺野古の新基地阻止行動に  
参加し、現場（ゲート前）で沢山の本土からの方々  
に激励され涙がでる思いです。沖縄に居る我々が  
頑張らないと示しがつかないと思っています。勝  
つまで頑張るゾー！！

### ●岡添晃（沖縄）

各地の皆さんが反原発・憲法9条・環境汚染  
等々の戦いもされており、バイタリティーという  
かパワーに圧倒された。この力を収斂した本会の  
開催で大いに力を与えられた。

### ●岡添克子（沖縄）

38 名の皆様のパワーと各地での取り組みに励  
まされました。辺野古新基地阻止に向けて大きな  
一里塚になったと思います。連携を強め、活動を  
広げ共に頑張らしましょう。

### ●阿波根昌信（沖縄）

地震が頻発するきびしい状況にもかかわらず、  
西日本各地からお集まりいただいた皆様の行動  
力・発信力の力強さに勇気づけられました。素人  
ばかりの私たちですが、いろいろ学んでいきたい  
と思います。

### ●阿波根美奈子（沖縄）

ハードスケジュールの後の交流会でしたが、パ  
ワフルな出し物と、炭坑節がピリッときて最後  
はヒロジさんのさすがの盛り上げで最高でした。  
今回の全国集会で連帯が強まりました。

### ●渡部章子（沖縄）

準備・開催してくださった皆様ありがとうございます。  
お陰様で新鮮な学びとそして何よりも  
みんなと繋がっているんだという実感が大きな  
収穫でした。またお会いしましょうね。よろしく  
お願いします。

### ●新城秀子（沖縄）

全国連絡協議会共同代表の大津幸夫さんが「私  
達の自然や生活を守り、軍事基地を作らせない。  
一人一人が全国で闘う出発点としたい」との呼び  
かけに勇気をもらいました。辺野古に土砂搬入を  
許さないと心強く思ったものです。

### ●高田 涼（沖縄）

法律を中心に戦えたら心強いと思いました。で  
もこの国で一番権力があるのは裁判官ではなく、  
総理大臣・与党なので内地の選挙、野党共闘の状  
況が聴きたかったです。



テント村で山城博治さん(左後姿)の歓迎を受け、喜ぶ参加者

●祖堅洋子（沖縄）

「戦世はならん」「人を殺してはならん」両親・叔父叔母の遺言でした。沖縄戦の慰霊とは戦争しないこと！基地を造らさないこと！辺野古に座り込み、権力に抵抗する私の精神は沖縄戦を体験した祖先の遺言を継ぐ心の芯となっています。勇氣と希望をありがとうございます。

●高垣喜三（沖縄）

辺野古への埋め立て土砂搬出反対の包囲網は初めて沖縄で顔と顔を合わせ、手と手を結びその輪が繋がった。それぞれの当事者としての闘いに勇氣をもらうとともに、その熱意に感銘した。

●高垣縁（沖縄）

伊江島ツアーのプログラムを通して「ヌチドゥタカラ」であることを学び、戦争しない、平和を愛し平和を創る人づくりをしていくことの大切さを参加者と共有することが出来た。

●向井保子（京都）

土砂がなければ基地は出来ないという言葉が心に残り「一粒の土砂も送り出させない」との思いを改めて強くしました。ご尽力下さった全ての方々に感謝の気持ちで一杯です。

●久保田信子（福岡）

基地問題は沖縄を知ることから始まります。名護市での学習交流会は、内容の充実したもので良かった。島ぐるみ会議の方々にはお世話になりました。感謝です。

●家門和宏（大阪）

土砂搬出に反対する取り組みが、具体的に直接的な、辺野古基地建設阻止のたたかい、連帯行動だ！と痛感しました。皆様、大変お世話になりました。頑張りましょう！



伊江島の「反戦平和資料館」の前で

●奥村邦子（京都）

ゲート前の緊張。辺野古沖に延々と続くフロートに阻まれる理不尽さ。風に揺れるのどかな畑を囲むような海兵隊施設のフェンスの中では、オスプレイから落下傘が降りる。

京都の自然と同じように、沖縄のこの美しい海と森をこわさないでという願いを、日本全国当たり前のものにしたいと思った。沖縄の覚悟は私の背筋をシャンとさせてくれた。現場に行く人を広げることは大事だと思う。

●滝本敏子（京都）

ゲート前での座り込み、どこまでも続く鉄条網のフェンスの米軍基地、夕日ヶ丘から見た採石場の拡大さ、青い海での青珊瑚の美しさ、ジュゴンの生息地を奪い取る埋め立ては、絶対に許さない。

オスプレイの爆音、ジュゴンの丘からのすばらしい風景。現地目で確かめて、怒り沸騰。参加出来たことに感謝。署名で訴えましょう。

●青木敬介（兵庫県）

正直言って今回の沖縄集会是「全協」の皆さんの、お名前とお顔を覚えてだけで、今後の具体的な取り組みの相談が出来なかった事が残念。各々の「砕石」業者は、手ごわくて中々こちらとの話し合いに応じないです。天草の生駒氏らのように、弁護士を中に入れれば、話に乗ってくる事もあります。

それと、地元の漁協と関係できれば、「漁業権」を楯に頑張れますが、このごろは漁師も「補償金」だけほしいというのが多いので、彼らに覚悟させるのもかなり難しい。が、話しの持ち込み方で、うまくいく可能性があります。何としても各地の共通認識が必要です。

●藤本修子（福岡）

伊江島の「団結道場」に書いてあった「米軍に告ぐ、ここは私たちの国 私たちの村 私たちの土地だ」の言葉は21世紀の今、沖縄を含む日本全体の言葉だ。

●大嶽弥生（熊本）

案内がなければ決して知ることの出来ない沖縄の現実。基地や海、伊江島のオスプレイ訓練。この現実を踏まえ自分達地域の役割を果たして行きたい。参加してよかったです。

●菅波鈴枝（東京）

沖縄の現状を知るととても良い企画に参加でき良かったですありがとうございました。日々現地で活動している皆様のご苦勞を感じながら、自分に出来ることで応援してまいります。

●大坪満寿子（鹿児島）

人の手を加えたものは自然とは呼びません。美しい自然を子や孫に残していくことが私達大人の努めです。負の遺産を残さぬよう、全国の美しい自然を共に守り抜きましょう！

●久保田信（和歌山）

シュゴンの見える丘に立ち、彼らの暮らしぶりもみえますように。ちゅうらうみの沖縄をはじめ、全ての生きとし生きるものが互いの命を尊重し、地球の全所で優しい共生ができるよう、人はとりわけ努力しなければいけないでしょう。

●谷内和子（三重）

私に、「誇りある豊かさと自己決定権」を示してくださった沖縄の皆様にお礼を申し上げます。毎日の緊張の中お体をお大切に。辺野古の海を守るため頑張ります。

●張替洋子（東京）

東京に住み活動している中で、今いち踏み込めない思いがあったが、今回沖縄の方の案内で各地を見聞きし・学習・交流を重ね、理解が深まり一体になれたと実感でき参加して良かった。

●毛利孝雄（埼玉）

現状に抗う運動は常に少数者から始まる。その連携がやがて時代の精神をつくり出していく。議員要請、署名と政府・企業への抗議など、具体的な活動で首都圏の態勢を整えたい。

●若槻武行（神奈川）

一人残り、22日は再びゲート前へ。山城さんらの笑顔が不安を消してくれる。昼近くには座り込みも増え盛り上がり、何人かの友人もできた。励まされ、沖縄とつながった感動を噛みしめて帰路に就いた。

●新田秀樹（広島）

今回の沖縄訪問、大変有意義なものになりました。美しい自然を守ることは当然であり、何より「平和・人権・地方自治」を新たためて考えさせられました。新基地建設反対は全国の課題だ。

●麻田法江（山口）

各地での取り組みに触れ、土砂搬出の問題を広く訴える事が大事だと思いました。やはり土砂搬出は陸、海の環境を変えます。破壊します。平和学習の大事さも痛感しました。

●麻田茂樹（山口）

沖縄戦の実像と同じ過ちを繰り返さず日本政府の動きをリアルに感じることでできるツアーに感謝します。本部、名護の島ぐるみ会議の人々、全国協に結集する各地の真剣な取り組みとタフさにこの運動の広がりを感じる事が出来ました。

●安部真理子（神奈川）

土砂採取予定地やケーソン製造地など多くの関係者とお会いでき、大変有意義な時間を過ごすことができました。この計画を阻止すべく引き続きがんばりましょう

2日目の学習交流会で、稲嶺市長の挨拶を熱心に聞く参加者



●吉田良子（京都）

辺野古・キャンプシュワブゲート前の座り込みで、大型ダンプカー、巨大軍用車両の通過に恐怖と怒りを体感。学習会では沖縄の現実を知り、交流会では参加者との出会いに感動。

●高橋賢二（三重）

学生時代に歌った「沖縄を返せ」を現地の方々と歌いながら感動で落涙を禁じ得ませんでした。また特に伊江島で手にした岩波新書「米軍と農民」でオール沖縄の原点を学びました。

●川端善一郎（愛媛）

辺野古の海を守ることが人の命を守り、そして正義を実践することにつながっていくことを、お世話をしてくれた方々と学習会に参加した元気な仲間の熱意から学びました。

●土居立子（愛媛）

知らないことばかりの、有意義で、楽しい時間でした。皆様、本当にお世話になりました。またお会いしましょう！（早速、23日松山での伊方集会で、大谷さん、新田さんとお会いしました。）

●大野恭子（愛媛）

深くて豊かな企画に溢れた、そして楽しい方々と出会った今回の学びの旅は、私の心の無敵のシーサーとなりました。有難うございました。私の現場で生かしていきます！

●松尾京子（愛媛）

愛媛にもゲート前座り込みがあります。毎月11日の伊方原発ゲート前で。私はここで40年に亘る反対運動を闘ってきた人々を思います。これからは沖縄のことも。ありがとう沖縄。

●野田恵美（福岡）

日本国中をコンクリートの街にするために、如何に自然の暮らしが破壊されてきたか！辺野古基地建設に大量の砂を使うなど、以ての外。戦争へ最短距離の基地建設はいらない！

●飯沼潤子（東京）

沖縄学習交流会は大変勉強になりました。辺野古には何度か行きましたが、今回は大浦湾に出たり、山から採石場を見下ろしたり、伊江島で謝花さんの話を聞いたことも貴重な経験です。島ぐるみのみなさんありがとうございました。

●久保田敏子（和歌山）

普天間基地のまわりに、ここまで学校が集中している事に驚きました。また、辺野古に貴重な生物が生息していると聞き、埋め立てるのはもったいないと思いました。

●八記久美子（福岡）

伊江島で買った阿波根昌鴻さんの本から、どうすれば戦争が無くなるのかを学びました。超充実した「沖縄学習交流会」立役者の阿部悦子さんと沖縄の皆さんに、感謝です。

のり  
生砂搬出反対全国連絡協



上は、学習会会場で挨拶中の稲嶺市長。お忙しい中、ありがとうございました。右は交流会の最後。会場中が腕を組んで歌いました。

右は2日目の交流会で挨拶をする阿波根美奈子さん。下は、同じく交流会の様子。楽しそう。



## いちばん出会いたかった人々に出会えた

稲嶺市政を支える女性の会事務局長 浦島悦子

週明け平日(月曜日)の昼間という、人がいちばん集まりにくい時間帯の学習会に何人が足を運んでくれるのか、精いっぱい宣伝・広報はしたつもりだけれど、直前までドキドキだった。加えて雨まで降り出し、しかもだんだん激しくなる。もし、会場がガラガラだったらどう



学習交流会で挨拶をする浦島さん

しよう…、全国からせっかく来てくださった方々に申し訳ないという心配は、しかし、開会時間が近づくにつれて見事に吹き飛ばされた。

会場を埋め尽くす人々の熱気に呼応する

かのように、公務の合間を縫って駆けつけた稲嶺進・名護市長の挨拶は予定時間をはるかにオーバーして熱を帯び、阿部さんとともに司会を務めていた私をハラハラさせたが、全国協の方々喜んでくださったので救われた。

学習会も交流会も、そして現地ツアーも、それぞれのかげがえのない故郷を守りたいという思いを共有し、重ね合わせる場となった。20年近い辺野古新基地反対運動の中で、孤立無援とも感じる辛い時期を潜り抜けてきた私たち地元住民が、いちばん出会いたかった人々に出会った喜びは何ものにも代えがたい。ここを出発点に絆をより強く深くし、棄民を許さず、それぞれの故郷とともに守り、未来を切り開いていきましょう！

## 五感を通した反戦平和への決意

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会 共同代表 大津 幸夫

全国各県からご参加いただいた 38 名の皆様方に心からお礼申し上げます。

今回の交流集会を総括反省するにあたり、評価すべき事項を試みてみます。

- ① ゲート前の抗議活動、大浦湾テント村訪問、普天間飛行場等の体験が、五感を通し反戦平和への決意を新たにすることができた事
- ② 現地「島ぐるみ会議」の皆様方の行き届いた受け入れ態勢が「おぼあ」の交流会での琉球舞踊の熱烈歓迎にそのままあられました。
- ③ 稲嶺名護市長の歓迎の5分あいさつが辺野古基地埋め立て反対の強力な決意表明に発展したことは、私たち交流団に対する「連帯の期待」の大きさを表したものと高く評価し、私たちはそれに応えなければならないと痛感いたしました。
- ④ 琉球新報、沖縄タイムスにも写真入りで大

きく交流集会の講演、各地の活動報告を報道してもらい、辺野古埋め立て反対のたたかいの力を大きく広げることができました。本当にご苦労様でした。

- ⑤ ゲート前闘争本部長の山城博治議長と辺野古テント村村長安次富浩氏に心から感謝申し上げます。
- ⑥ これから「ケーソンをつくらせない」署名運動の強化を達成し、次回総会での再会を楽しみにしています！



大津代表(左)と稲嶺市長(右)



# インフォメーション

## 第3回全国連絡協議会総会ご案内

全国連絡協議会の第3回総会の準備を始めます。開催地を受けてくださる所がありましたら、事務局までお知らせください。なお、日程につきましては10月頃(案)とし、事務局を中心に調整に入ります。

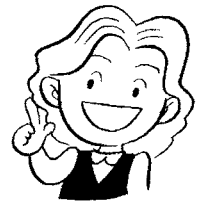
## 今回の署名締め切りは7月25日です

「辺野古埋め立て用土砂採取計画の撤回を求める署名」と、「辺野古のケーソンをつくらせない署名」の締め切りは7月25日といたします。集まった署名を持って8月上旬には、それぞれ総理大臣と、(株)JFEエンジニアリングの社長あてに提出する予定です。まだ思うように集まっていませんので、みなさんのさらなるご協力をお願いします。

## 会費・カンパ・パンフレットの振り込み口座はこちら

- ・会費…辺野古土砂全協の会計年度は、4月1日～3月31日です。加盟した月までに、2016年度の会費納入をお願いします。振込用紙に【会費】とご記入ください。
  - ・カンパ…振込用紙に【カンパ】とご記入ください。
  - ・パンフレットのカンパ…振込用紙に【パンフレットカンパ】とご記入ください。
- 《口座はいずれも》

郵便振替 01750-8-144158 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会



## 会員を募集しています

一人でも多くの方にニュースと折々の情報をお送りしたいと思います。また当協議会の財政基盤を安定させるためにも、同封の振込用紙にてご入会をお願いします。(団体一口1万円、個人3000円)

## 編集後記

- 「願えばかなう」「勝つ方法はあきらめないこと」そのことを確信した今回の沖縄の4日間でした。「つながる」ことの大切さをも改めて実感。その集大成がニュースという形になって、新たな仲間が出来る幸せを思います。(阿部)
- 私は家族の急病によって、今回の沖縄学習交流集会参加を断念しました。とはいえ、学習交流会決議案、学習会資料、参加者名簿の作成などに関わったことで、今回のニュースで私にも、沖縄での4日間が手に取るように想像されました。ところで、事務局の私の自宅には、ほぼ毎日のように署名用紙を詰めた封筒が5通から10通も届き、私からはお礼とさらなるお願いの書面を添えて発信しています。今回のニュース、発刊したばかりの冊子によって、新たな運動の広がりを呼びかけていきたいと思います。(松本)
- 今度のニュースの原稿の書き手は総勢57名。すごいですね。沖縄での学習交流集会を成功させた力で、このニュースNo.4を作成することができました。個人的には、初めてビデオに挑戦しました。アップや横に移動しながらの撮影の動きが速すぎて、編集していて目が回りました。まーぼちぼち慣れていこうと思っています。(八記)

## 《辺野古土砂搬出反対全国協ニュース》

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 大津幸夫(自然と文化を守る奄美会議)

阿部悦子(環瀬戸内海会議) hibi\_letsuko@yahoo.co.jp

編集…松本宣崇(環瀬戸内海会議) nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

八記久美子(門司の環境を考える会) kanpanerura8k@mail.goo.ne.jp

連絡先…愛媛県松山市松前町3-2-2 阿部悦子 TEL090-3783-8332